平成 18 年 12 月 1 日

各　　位

会 社 名　東日本ハウス株式会社
代表者名　取締役社長 成田和幸
（ＪＡＳＤＡＱ・コード　1873）
問合せ先　執行役員財務部長 青苅雅肥
Ｔ Ｅ Ｌ　（０１９）６２４－３２６１

平成 18 年 10 月期　通期（連結・単独）業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 18 年 9 月 26 日付の「平成 18 年 10 月期　第 3 四半期財務・業績の概況（連結)」にて発表いたしました「平成 18 年 10 月期（平成 17 年 11 月 1 日～平成 18 年 10 月 31 日）の通期の業績予想」を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

１．業績予想数値の修正

【連結】

通期（平成 17 年 11 月 1 日～平成 18 年 10 月 31 日）　（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（Ａ）	73,800	3,340	770
今回修正予想（Ｂ）	69,200	2,900	▲ 6,500
増減額（Ｂ－Ａ）	▲ 4,600	▲ 440	▲ 7,270
増減率（％）	▲ 6.2%	▲ 13.2%	－
（ご参考） 前期実績(平成 17 年 10 月期)	78,151	1,525	▲ 8,559

【単独】

通期（平成 17 年 11 月 1 日～平成 18 年 10 月 31 日）　（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（Ａ）	64,900	2,670	300
今回修正予想（Ｂ）	60,900	2,400	▲ 7,170
増減額（Ｂ－Ａ）	▲ 4,000	▲ 270	▲ 7,470
増減率（％）	▲ 6.2%	▲ 10.1%	－
（ご参考） 前期実績(平成 17 年 10 月期)	65,170	1,118	▲ 9,150

２．修正理由

（１）連結

売上高は、単独の完成工事高が前回予想より減少したことにより前回予想を下回り 69,300 百万円となる見込みであります。経常利益は、売上高の減少の影響により前回予想を下回り 2,900 百万円となる見込みであります。当期純利益については、経常利益の減益に加え、当社及びグループ会社の財務体質を早期に改善するために、当期において債権の見直しを保守的且つ厳格に評価しました。その結果、当社において 920 百万円及び連結子会社である株式会社ホテル東日本 611 百万円、東日本ハウスサービス 1,854 百万円の貸倒引当金繰入額をそれぞれ計上したことにより、貸倒引当金繰入額 3,385 百万円となりまた平成 18 年 3 月 15 日に発表いたしました「固定資産の減損に係る会計基準」の適用に伴う特別損失の発生に関するお知らせのとおり、減損損失 1,639 百万円などを特別損失に計上することと、それに伴い繰延税金資産の取崩しにより法人税等調整額（損）5,046 百万円計上することから前回予想を下回り当期純損失が 6,500 百万円となる見込です。

（２）単独

売上高は、完成工事高が前回予想より減少したことにより前回予想を下回り 60,900 百万円となる見込みであります。経常利益は、売上高の減少の影響により前回予想を下回り 2,400 百万円となる見込みであります。当期純利益については、経常利益の減益に加え減損損失 1,347 百万円、子会社株式評価損 1,570 百万円、貸倒引当金繰入額 2,325 百万円などを特別損失に計上することと、それに伴い繰延税金資産の取崩しにより法人税等調整額（損）5,046 百万円計上することから前回予想を下回る当期純損失が 7,170 百万円となる見込みです。

注）上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以　上